

## 5 運営にあたって

特定非営利活動法人青少年自立支援施設 淡路プラッツ

藤村 泰王

当法人が東淀川区中学生勉強会事業（以下、勉強会という。）の運営を行い3年がたちます。

この間、勉強会に参加している子どもと接していてわかったことは、子どもたちは「漠然とした不安」を継続的に感じているということです。この漠然とした不安は、中学生・高校生年齢の子どもにはよくあることですが、多くの子どもたちは親や周りの大人、友人等との関わりの中で不安を解消できたり、解消できないながらも周りの助けを借りることで大きな問題を抱えることなく生活することが出来ています。しかし、勉強会に参加している子どもたちは様々な理由から漠然とした不安に対処できず、不安定な心理状態が継続しているように感じます。

様々な理由には、生活の困窮、親のメンタルヘルスの問題、多子に伴う弟妹の世話の担い手となっている等、子どもを取り巻く生活環境の困難さの問題が多く、それに伴い、円滑な友人関係が結べない子どもや学力低下等により学校生活に溶け込めない子どもや、自尊感情の低さから自分自身の生活がなげやりになっている子どもも少なくありません。これらの困難さを抱える子どもたちは、社会から孤立しているだけでなく家庭内でも孤立し、また、貧困であるがためにいち早い諦めや短絡的な解決を求めて更なる困難を生み出しやすい状況にあるようにも見受けられます。

こうした様々な困難さを抱える子どもが参加している勉強会を当法人が運営するうえで特に大切にしていることは、「居場所（＝安心して通える場所）」・「人」・「連携」の3つです。

### 1 「居場所」＝「安心できる場所」

社会や家庭から孤立している子どもにまず必要なのが「居場所」だと当法人は考えています。

当法人はひきこもり・ニート・不登校（以下、ひきこもり等という）といった問題を抱える本人や家族への支援を行うNPOであり、今年で27年目を迎えます。様々な支援メニューがありますが、その中でも本人に対して中心となるのが「居場所支援」です。この「居場所支援」は自尊感情を高め、様々な経験やスキルを身につけることを目的に行っており、これら「居場所支援」の知識と経験を十分に活用することで、子どもたちにとって勉強会が安心できる「居場所」になるような関わりを目指しています。

では、なぜ「居場所」が必要になるのかということですが、先ほども記述したように子どもたちは常に何かしらの不安に身を晒されており、学習に取り組む以前に落ち着いて生活を送ることが出来ない場合があります。その子どもにいくら学習の必要性を伝えたところで意欲的に向き合えるわけが



「クリスマスイベントより」

ありません。その為、勉強会に参加して学習を行うことを優先するのではなく、まずは子どもの話に耳を傾け、向き合ってくれる他者がいることを感じてもらいます。

そこから日々の勉強会の中で、ありのままの自分を受け入れてくれる他者がいるということ子どもたち自身が体験することが大切だと考えています。

この体験を通じ安心できる場所として勉強会に継続的に参加し、受け入れられる安心感や学生サポーターとの信頼関係を築くことで、自尊感情が養われ高まっていくと考えています。

その他の居場所の関わりとして学習だけではなくイベントとして季節の行事等を行い、文化的な貧困の解消も行っています。クリスマス会、餅つき、お月見（茶道体験）、流しそうめん、等のイベントを行い、家庭ではできない、または不足している経験が得られるような機会にします。また、イベントに限らず、普段の勉強会でも子どもの得意なことや役割を与えることを通じて、頼られる経験、感謝される経験もできるように関わりを行い、自尊感情を高めていくことを目指しています。

## 2 「人」との繋がり

勉強会では、子どもと学生サポーターのマッチングを、基本的にマンツーマンで行っています。マンツーマンで関わることでそれぞれの子ども話にしっかりと耳を傾けることができ、またそれぞれの子どものペースに合わせた学習を行うことができます。ただし、固定されたマッチングだけではなく、ある程度、流動性を持たせたマッチングを行うと共に、マンツーマンを基本に数名の子どもと学生サポーターのグループでの関わりも行っています。これにより閉鎖された関係性ではなく、様々な他者との関係性を構築するよい経験になり、また、一人の子どもに対し多くの学生サポーターが関わることで、多角的な視点で子どもの個性を捉えたり学習支援を行うことが可能だと考えています。

また、学習サポーターの横の繋がりに関しても重要視しています。サポーター同士の関係性が希薄であればグループの力動が悪くなり、グループの形成も難しくなります。また、学生サポーターの横の繋がりがあることで、学生サポーターを通じて子ども同士が繋がり、新しい関係性を構築していく場合もあります。これらの学生サポーターや子ども同士の関係性を構築することで、社会的な孤立の解消や他者との関係性を構築するためのスキルの獲得を目指しています。

学生サポーターは、主に子どもに比較的年齢の近い大学生を採用しています。また、教育・福祉関係に興味のある学生だけではなく様々な学部・ジャンル（社会・経済・芸術・体育・外国語等）の学生等を採用し関わってもらうことで、子ども達の様々な興味関心や価値観に対応出来る幅広い人材を確保するようにしています。

また、大学生をサポーターにすることで、子どもが今後の進路を考える際の身近な「ロールモデル」になっており、そのことは自分の未来や将来を考えるうえでとても重要だと考えています。

子どものインテークをとる際に中学卒業後の進路を聞き取ると、進学は高校までと考えている子どもが大多数です。これは、学費の問題と、収入を得る働き手としての役割を子どもに期待せざるを得ない経済的な理由の他に、高校以降の進学を経験していない親が少なくないことが考えられます。親自身が高校卒業後働いていたり、高校を中退して働いているためそれ以降の進学という選択肢が子どもや親にないことが背景

大阪府 東淀川区役所  
2018 4月中旬～

# 中学生勉強会の、サポーターを募集しています。

**「貧困の連鎖」**  
…生活困窮世帯に育った子どもたちが成人した後も、親世代と同様に貧困に苦しむ、というサイクルがしばしばみられます。

こうした負の連鎖を断ち切るためには、ひとつは高校進学をめざした「学習支援」が重要です。

ですが、たんに学習塾に通えばいいというわけではありません。

不登校やひきこもり、家庭の様々な事情で落ち着かないなど、地域の中に安心して過ごせる場所を失っている子どもたちにとっての「居場所」でもあること。

この勉強会に来た子どもたちが安心して過ごすことができるように、とにかく親しみやすい、わかりやすいとした雰囲気づくりをしています。

そこに、サポーターの大学生達が生徒ひとりひとりに寄り添って関わっています。

子どもたちにとっては、大学に通っているお姉さんやお兄さんは、近い将来のモデルにもなります。

たわいない話を聞いてくれたり、一緒に笑ったり、自分の学習に足りないところを教えてくれたり、また悩みを聞いてくれるお兄さん、お姉さんは、子どもたちにとっては大切な時期を支えてくれるありがたい存在です。

このような中学生と関わってくださる方を募集しています。

平成30年度 東淀川区中学生勉強会事業

学習サポーター募集チラシ（表面）

●勉強会会場  
毎週金曜日  
阪急京都線上新住駅近隣

●面接場所  
NPO法人淡路プラッツ  
阪急京都線淡路駅徒歩5分

勉強会開催時間  
火曜日、金曜日とも、18時半～20時（サポーターは18時20分集合、20時20分解散）

研修  
隔月で研修やミーティングがあり（有志参加）、生徒と関わっていただくために必要な情報、また支援のスキルアップができるようにサポートしています。（いずれも勉強会終了後です）

謝礼  
1コマ（2時間）2,000円です。

交通費  
支給（ただし上限があります）

まず面接をさせていただきますので、ぜひ下記までご連絡ください。

お問い合わせ  
NPO法人青少年自立支援施設 淡路プラッツ  
〒533-0021 大阪府東淀川区下新住1-2-1  
<http://www.awajiplatz.com/>

06-6324-7633（担当：藤村）  
090-9274-8139（事業携帯）  
※火～土の10時から18時  
benkyouplat@gmail.com

この勉強会は『生活困窮者自立支援法』に基づき、大阪府から委託を受けてNPO法人淡路プラッツが実施しています。

学習サポーター募集チラシ（裏面）

にあります。

そうした環境の中、大学に通うサポーターと関わることは、大学進学という選択肢を増やすことになると考えています。そして、大学生を含め多くの大人が関わることは、子どもにとって幅広い「ロールモデル」を獲得するチャンスになります。教育・福祉の分野だけではなく幅広いジャンルの興味関心を持った大人が関わることで将来の選択肢を増やすだけではなく、「ロールモデル」に触れることで日々の他者への関わり方や言葉使いに関しても変化していきます。

学習意欲の低い子どもは勉強会で無理やり学習に向き合わせるのではなく、多くの価値観や「ロールモデル」に触れることで、めざす将来像が定まることがあります。そこで、信頼関係ができた学生サポーターが子どもに対して、本人の希望する将来像を見せた学習の必要性を伝えることで学習意欲が高まり、学習と向き合うことができるようになります。

### 3 役所担当課、ケースワーカー、学生サポーター、等との「連携」

勉強会に参加している子どもは会話の中で「こういったことが困っている」と話すわけではありません。雑談の中で愚痴やつぶやきといった形で出てくることが多く、子ども自身は困りごととして認識していないこともあります。これら何らかのサインを正確に拾うためには学生サポーターとの情報共有が必要になります。情報共有で重要なのが学生サポーターと毎回の勉強会終了後に行う振り返りミーティングです。その日に行なった学習内容や会話の中で気になったことなどを振り返り、記録を付けています。この振り返りミーティングを行なうことで何らかのサインを見逃すことなく子どもの状態を把握し、次の勉強会の中で情報収集や経過観察しながら関わっています。

拾ったサインの中には様々な困りごとがあり、友人との関係、不登校や学校に関する事、親の健康問題や親との不仲、場合によっては虐待を疑わざるを得ない状況もあります。勉強会の開催時間が1時間半という限られた時間の中での関わりのため、全てが解決できないことや家庭内の問題に対して勉強会として関われることには限界があります。そこで、必要になってくるのが役所担当課やケースワーカーとの連携になると考えています。

日々の勉強会の中で困りごとサインが出てきた場合、勉強会内で子どもに対して解決するための情報提供を行なうとともに、子どもに関わるだけでは解決できない問題に関して、役所担当課やケースワーカーと連携を行います。例えば、「帰っても晩御飯がない」といった訴えがあった場合、子どもからの情報収集を行い、役所担当課、ケースワーカー等に情報提供し、子どもの話だけではなく親からも情報を集め、必要に応じて親に対し解決方法や制度等の紹介を行なってもらうなどお願いしています。

#### 4 子どもの変化、学生サポーターの変化

当法人が大切にしている「居場所」での関わりや「人」との繋がりは、目に見える変化になるまではどうしても一定の時間が必要になります。例えば、子どもが来た時に「こんばんは」と声をかけても「うん」しか答えなかった子どもが「こんばんは」というようになる。日々、その子どもに接している私たちからすれば大きな変化で、時間をかけて挨拶をするという習慣が身についたのです。

また、つい先日も、参加当初は走りまわって勉強に見向きもしなかった子どもが走り回るのをやめ、椅子に座るようになり勉強はしないものの絵を描くなど落ち着きを見せ始め、さらにその後、「勉強してみようかな」と言うようになったと学生サポーターとの振り返りミーティングの中で話が出ました。これは、時間をかけ、多くの学生サポーターがその子どもに向き合い信頼関係を築き、それぞれの価値観や経験から学習の必要性を伝え続けた成果です。

これらの子どもの変化は、学生サポーターにも影響を与えます。学生サポーターがこの事業に関わろうとした動機は「子どもたちに何かしてあげたい」というものが多いのですが、参加し続ける中で「自分の成長に繋がる」「自分の経験としてとても大切なものになる」といった形で、参加する動機が変化することが多いように感じます。

また、学生サポーターという役割を与えられ、関わる中で子どもの変化を目の当たりにし、子どもから慕われることで自分も変化し成長し、学生サポーター自身も自尊感情が高めることができると共に、居場所になっているように感じます。

当法人としては、「居場所」「人」「連携」の3つを意識し、勉強会の運営を行なってきました。成果が出るまでには継続した関わりが必要ですが、子どもだけでなく学生サポーターも自尊感情を高め、自己肯定感が向上することで相乗効果が生まれます。この相乗効果によって、質の高い事業となり地域社会にとって大切な資源になると考えています。

#### 5 学習の側面から

これまでは居場所的に関わりについて触れてきましたが、学習の側面についても触れたいと思います。

勉強会では、子どもが学習する際に同じ参考書等を使用しているのではなく、個々の習得度に合わせた学習を行っています。学校からの宿題をメインにしている子ども、自分で購入した問題集を行う子ども、勉強会として用意している塾などで使用している基礎の反復学習をメインとした問題集や、市販している参考書や問題集を行う子どもなど様々です。また、九九や漢字の書き取りから復習する事もあります。

また、勉強会では子どもが来たら「本日の学習シート」にその日の気分（感情）と学習したい内容を記入し、学習サポーターとその日の目標を立てます。そして、その日の勉強会終了前に目標の達成度と一番印象に残った内容や出来事を学習サポーターと共

に記入しています。この「本日の学習シート」はP D C Aサイクルを身につけ、学習だけでなく様々な事に対して、自分で見通しを立て、見直し、よりよい方法を見つける力を養うことを目的として行っています。

また、学習面では、P D C Aを繰り返すことで子どもと学習サポーターと一緒に苦手な単元を見つけ、復習すべき部分が明確になるので、今後の学習プランへとよりよく反映されていきます。

子どもたちは「何がわからない」のかが「わかる」ようになる事で、例えば「英語」がわからないのではなく、「関係代名詞」がわからないという風に、勉強全体の苦手さではなく部分的な苦手さを理解し、また、習得できている部分があることも理解するようになります。

習得できている部分があることで学習に対して自信がつき、その自信を苦手な部分の取り組みに繋げることで学習への抵抗感が減ってくるように感じます。

実際、全教科にわたりテストの点数が取れなかった子どもが、勉強会に参加するようになってからある教科の定期テストが10点台から50点台に上がる経験を機に、学習に対して意欲的になり、その学年の最終の定期テストで、5教科の平均が50点台にまで上がりました。この子どもは多子家族で、弟妹の面倒をみるため自宅での学習時間が取れず、勉強ができないことから自信が持てず、勉強会では笑顔も少なくほとんど自分の意見を言うことがなかったのですが、平均点が50点を超えた経験を機に少しづつではありますが、自分の意見を言うようになり、笑顔をよく見せるようになりました。恐らく、この顔が本来の姿であったのではないかと思います。また、元々の面倒見のいい性格から勉強会でも他の子どもの勉強のわからないところを丁寧に教える姿が見られ、それだけではなく、自分が甘えられる関係性を他の子どもと構築し、楽しんで参加している姿がとても印象的でした。

その他、テストで10点しか取れなかった子どもが30点取れるようになった、勉強会でまったく学習する事がなかった子どもが「勉強してもいいかな」と話すようになった、などのエピソードがたくさんあります。

このように勉強会で行っている学習支援は、塾で行っているような「より学力の高い高校」に行くためというものではなく、それぞれの子どもの習得度に合わせて学習を行い、学力の底上げを行うことや学習する習慣をつけることを目的に行っています。

## 学生サポーターの確保に関して

この事業の特徴である、子どもに学生サポーターをマンツーマンでマッチングさせるための、学生サポーターの確保に関して触れたいと思います。

学生サポーターの確保にはいくつか経路があります。一つ目は当法人が連携を取らせていただいている大学の先生方、また、役所担当課や職員の方より紹介いただいた大学の先生方にご協力いただき、学生に本事業の紹介とチラシの配布をお願いしています。

二つ目は、現在、学生サポーターとして関わっている学生の紹介という経路があります。すでにサポーターとして勤務している学生からの紹介のため、勉強会への適性が高く、実情もあらかじめ詳しく聞いているため、子どもとのマッチングに関してもスムーズに行うことができます。

また、当法人が受託している不登校通所事業に関わっている学生にも本事業を紹介し、興味のある学生がサポーターとして関わっている場合もあります。こちらの経路から勤務を開始するサポーターは、不登校通所事業で子どもと関わる経験と研修も受けているため子どもたちに対しての関わりもスムーズに行うことができます。

このように、当法人のみのネットワークだけではなく、役所担当課や職員の方のネットワーク・学生サポーターのネットワークも活用し、学生の確保を行っています。

## 6 学習支援アシスタントが出会った子ども達

特定非営利活動法人青少年自立支援施設 淡路プラッツ

榎 邦彦

学習支援アシスタントとは、勉強会実施時に業務全般についてサポートやフォローを担当しているスタッフです。具体的には、会場設営・子どもとサポーターのマッチング・子どもが入室した時の対応・学習教材の準備・お菓子などの買出し・お茶やおにぎりなどの準備・会場の見守り・インテーク面談・サポーター振り返りの進行・会場撤収・会場戸締まりの最終チェックなどを主に受け持っています。いつも教室にいてウロウロしているので、子ども達との距離も近くて気楽に話しかけてもらえるありがたいポジションです。そんなアシスタントの目から、印象に残っている子ども達の様子をいくつか紹介したいと思います。

(プライバシー保護の観点から、ケース内容の一部を修正・編集を加えています)

### 【ケース1：Aさん】

「家族の理解と承認が自信へとつながる」

#### ■一人のサポーターから■

直営時代から参加していた生徒で、マッチングは一人のサポーターが固定して担当していたという前情報を持っての初対面でした。前年度までとは顔ぶれが違う勉強会の空気に表情を固くしていたAさんでしたが、奥からお気に入りのFサポーターが姿を表すと満面の笑顔で駆け寄っていきました。嬉しさを隠しきれない様子のAさんに、「Fサポーターがいてくれてよかったねー。去年の勉強会と雰囲気違ってびっくりしたかな？また去年の様子とかも教えてね」と話しかけてみました。するとAさんはしばらく黙りこくっていましたが、それをニコニコ眺めていたFサポーターに促され「こんな子がいた。こっちにはあんな子がいた」「あんまり勉強しない子たちもいた」と会話が始まり、「じゃあ君はいつもどうしていたの？」と聞くと「んー、勉強してたよ。でもたまには勉強しない日もあるかな〜。」と答えてくれて、Fサポーターに「ぜんぜん勉強してませんよ」とつつこまれ、僕も二人の会話に混ぜてもらうことができました。

#### ■控え室開放へ■

Aさんはじっと机に座っていることはなくて、隙あらばどこかに姿を隠していました。「おーいAさん、どこにおるん」と、FサポーターがのんびりとAさんを探して回る姿は



毎度おなじみの光景でした。子どもの入室を禁止しているサポーターの控え室にもAさんは目にも止まらぬ早業で潜入します。隠れているAさんに「この部屋に中学生は入ったらあかんことになってるんやけどー」と声をかけても「シー！」の一言だけで出てきません。

「見つけたぞー。出てこいよー」とFサポーターに見つかる素直に出てきます。「生徒はこの部屋に入ったらあかんこと知ってるよな」とFサポーターに言われると、「だってこの部屋なんか落ち着くんやもん」。そんなことが何度も続くので、サポーターの荷物や貴重品を自己管理とし、個人ファイルを入れたロッカーの鍵かけを徹底して、控え室を子ども達も出入り自由なスペースとして開放することにしました。以後、控え室のソファは子ども達のくつろぎの場となり、そこに座って子ども達の大切な打ち明け話を幾度となく聞くこととなります。控え室を開放へと導いたAさんの功績は大きいと思います。

### ■世界を広げはじめる■

「Fがおらんかったらおもないし、おらんかったら帰る」と言って憚らないAさんは、何ヶ月もFサポーター以外の人を受け付けませんでした。ついにFサポーターがお休みの日、速攻で帰ろうとするAさんを引き止めてFサポーターのいいところを教えてもらおうと、「だってFはおもしろいし、怒らへんもん」とのことでした。「ここのサポーターさんはみんなそれぞれおもしろいし怒らへん人ばかりやけどなあ」と僕が呟くと、「じゃあ今日はマキさん（アシスタント）でいい」と着席してくれました。その日は勉強はしなかったけれど、たくさん話をしてくれました。僕が他の用事で席を離れなければいけない時、代わりに座ってもらったサポーターに対してもAさんは話の続きをしてくれていました。そのうちFサポーターが休みの時に違うサポーターがつくことが何度か続くと、Aさんがいろんなサポーターに自分の話をすることが段々と増えていきました。Aさんの話題のほとんど家族やペットのことでした。家の中での些細な出来事や変化を細かく正確に話してくれます。Aさんが自分の家のことをとても大切に思っていることがわかると同時に、その小さな世界から出ることや変化への不安が強いこともわかりました。Aさんの世界を広げるためにも家を離れる時間がもっとあればいいのでは？ということで、Aさんが参加している火曜日の勉強会だけでなく金曜日の勉強会にも参加してみないかと誘ってみました。「Fが金曜日におらんやったら行ってもいいけど・・・」もちろんFサポーターは火曜と金曜の両方に来れるよう、都合をつけてくれたのでした。

### ■環境が変われば■

火曜日はそれまでの延長線のままでしたが、金曜日は別人のように勉強モードになっていて、人間関係や環境によってこんなに影響を受けるんだと驚きました。中学3年の手前あたりから塾代助成のクーポンを利用して塾にも通いはじめて、勉強会の無い日でも塾の自習室で勉強してる、と話してくれました。その間にAさんに大きな変化が現れました。学習に対する理解力・集中力が格段に増し、学校の先生にも褒められるくらいに成績が上

がりだしたのです。本人もやればできると自信を持ちかけていたのですが、元々、自分に自信が持てないAさんは成績が落ちることを恐れてビクビクする面もありました。自信が持てないことが続いているある日、たまたま用事で家族が勉強会の開催時間に来た時に、Aさんの変化を肯定的に伝えることができたことで、自宅に帰ってから「家族に褒められた」とうれしそうにその後の勉強会の開催日に話していました。そのエピソードの後、少しずつ自信がついてきたのか成績が落ちるのではないかと恐れることが少しずつ減ってきました。

#### ■サポーターのサポーター■

「もしも高校に入れたらの話やねんけど・・・」といつになく神妙な顔で話しかけてきたと思ったら、「自分もサポーターにしてほしい」と言ってAさんは僕の手をギュッと握り締めました。「Aさんがサポーターになってくれるのは本当に嬉しいけれど、サポーターは基本大学生以上って決まってるし、Aさんが大学生になってからかなあ」と答えると、「そこを何とかマキさんの力で・・・」と握った手を左右にブンブン振り回されました。

絶えず不安を口にしながらも受験勉強に向き合ったAさんは、志望校の高校に合格。高校の制服姿を見せに来てくれた時に「マキさん、ほら、約束約束」と笑顔で近づいてきました。「何の科目やったら教える自信あるの？」と聞いてみると、「何も教えられへんけど、中学生の話聞いてあげれる。自分も、ここでは勉強せんと話し聞いてもらってばかりやったし」それを聞いていたサポーター達から「そうそう、ペットの話ばかり聞かされた」とか「勉強せんとすぐどっかに行ってたもんなー」と突っ込まれると、「あの頃は別人やったから。ここに来たら成長するってこういうことなんやなーって思う」と話してくれました。

とりあえず高校生になったAさんの役割は、新人サポーターに勉強を教えてもらうことでサポーターを育てる「サポーターのサポーター」。いつの間にか彼はFサポーターに限らず、初対面のサポーターからでも勉強を教えてもらえるようになっていました。1学期の中間テストでは「やったことある内容ばかりやったからやけど・・・」と、中学時代には取った事がないような70点80点といった点数が並ぶ答案用紙を見せに来てくれました。学年が上がっても成績はクラスの上位をキープしているようで、身長も伸びて成長した顔を時々見せに来てくれます。

受験前の自己申告書で将来の希望の欄に「NPOに入ってボランティアをしたい」と記入していました。Aさんが大学生になって正真正銘のサポーターとして戻ってきてくれることをみんなで心待ちにしています。

## 【ケース2：Bさん】

「サポーターがロールモデルとなって将来の夢が広がる」

### ■友達を追ってつながる■

「Iさんと帰るのでここで待っててもいいですか？」と、Bさんは教室前のロビーに突っ立っていました。表情に乏しく、断られても構わないようにわざと投げやりに聞いている、そんな印象でした。ソファに座って話を聞いてみると、クラスの生徒からパシリをさせられていて、帰り道で待ち伏せされてるかもしれない、自分のことは気にしないでください、とのこと。教室内で勉強しているIさんに確認すると、「学校でいじめられてるから逃げてきたんだと思います。あの子も勉強できなくて困っているから勉強会に入れてあげられませんか？」と言うので念のため帰りに申込書を渡しておきました。対象となる世帯であったので手続きは順調に進み、正式に参加できるようになりました。

### ■勉強なんて手につくわけないでしょ■

勉強は本人が思っているほどできてないわけではなく、途中式を省いたり早合点が原因のケアレスミスがほとんどで、落ち着いて手順を踏んで進めていけばテストの点は容易に上がっていきそうでした。問題は、落ち着いて勉強に向かう環境になかなかならないということ。自分が置かれた状況を自虐的に笑うBさんの話から、クラスでのいじめだけではなく、悪い先輩からの呼び出しで困っていたり、家では病気がちな母親の代わりに家事をしていることが見えてきました。「こんな毎日じゃ勉強なんて手につくわけないでしょ」と人懐っこい笑顔で話すBさんの声には投げやりなトーンがどこか潜んでいました。「毎日勉強会があったらいいのに」、という呟きには、勉強会がある日は家事をしなくてすむから、という意味も含まれていたのです。

### ■時給1万円ならやってもいい■

高校に入学してからは、受験生の時以上に毎回必ず勉強会に参加するようになりました。スマホからのイヤホンに耳に突っ込んだまま開始1時間前には教室に来て、スタッフが会場設営をする様子を何をするともなく眺めていました。せっかく早く来たんだし準備を手伝ってみる？と聞いてみると「無理！」と取り付く島もありませんでした。ある時、「時給1万円くれるならやってあげてもいい」と言うので、大学生のサポーター達が忙しい中どんな気持ちで勉強会に来ているのかを話していると、「本当は自分もサポーターみたいになりたいですよ。でもどうしたらそんな事ができるのかわからない！」と言い放ってその場を立ち去りました。それでも次の週から少しずつ椅子出しを手伝ってくれたり、何か自分でもできることを探す素振りが見られるようになりました。

### ■いろんなサポーター達に囲まれて■

サポーターは基本的に中学生とマッチングしていくので、高校生に対して必ずしもマンツーマン対応できる体制にはなっていません。高校生のBさんには特に担当しているサポーターがいるわけではない代わりに、マッチングしている中学生が来るまで待っているなどで手が空いているサポーターを渡り歩いて楽しげに雑談する姿をよく見かけるようになりました。今流行っているゲームやアニメの話題で盛り上がりたり、アルバイトや恋愛関係の相談に乗ってもらったり、ファッションのアドバイスを受けたりと、相手のサポーターに合わせて、多様な切り口で会話を楽しみ関係を紡いでいきました。Bさんは何故か昭和歌謡や昔のアニメにも詳しく、大学生達にはまったく理解してもらえない僕の昭和あるある話や死語にもしっかり付き合ってくれたりもします。高校1年の勉強会終了式の時、Bさんに贈られたメッセージカードにはほぼ全員のサポーターからのメッセージが添えられていました。

### ■居場所を盛り上げたい■

「しょうがないし、やってあげる」というポーズを取りつつも、スタッフの手が足りなくて困っている時には会場の設営やお菓子の買い出しを自然に手伝えるようになりました。ある時、なかなか勉強に入れない新入り中学1年生を相手に「英語カルタ」の読み手を買って出て、普段とは違う戯けた声で英文を読んでみんなを笑わせてくれました。その辺りから、自分の居場所である勉強会を自ら盛り上げようとする動きが見られるようになりました。区役所の方がカレーを作ってくださった時は、「せっかく作ってもらったのに残しては失礼でしょ」と周りの子に声をかけて一緒にお代わりしたり、ハロウィンでは率先してかぶり物をつけてみんなを驚かせたり、遠慮や気恥ずかしさと折り合いをつけながら自分の殻をどんどんと破っていきました。極めつけはクリスマス会。飛び入的に用意した演芸コーナーにおいてカラオケで鍛えた美声を披露してくれて、クリスマスムードを盛り上げてくれました。

### ■将来の夢■

「将来の夢は美容師」と、Bさんは中学生の頃から一貫してその夢を語っていました。いくつもある専門学校の評判を調べたり学費を比較したりして、手の空いたサポーターの意見やアドバイスに耳を傾けてきました。どんな奨学金制度が使えるのか、どのくらいバイトしないといけないか、知れば知るほど「やっぱ無理でしょ」と諦めムードが高まります。そんな時に、親の仕送りに頼らず奨学金とバイトでやりくりしつつ勉強会にも参加しているサポーターの存在が、Bさんを勇気付けてくれているようです。

「開業したら1万円払うから髪切って」と言うと、「そんな時は恨みを込めて思いっきりカットしますよ」と手でハサミの形を作って、笑って答えてくれました。

### 【ケース3：Cさん】

「多彩な学部やジャンルのサポーターの必要性」

#### ■お絵描きが逃げ場■

勉強会では絵を描くのが得意な生徒が何人もいます。金曜日の教室の開所日、両手を膝の上でグッと握りしめ、うつむき加減で座っていたCさんもその一人。不登校気味だと聞いていたCさんの第一印象はまさに緊張を絵に描いたようでした。誰がサポーターにいたとしてもCさんの緊張をほぐすのは容易ではないように思いました。Yサポーターが隣に座ってしばらくするとCさんに笑顔が見られるようになりました。笑顔の理由はお絵描きにありました。絵を描くことを現実からの逃げ場にしてきたCさんにとって、美大生のYサポーターとの出会いはまさにベストマッチングでした。横に並んで一緒に絵を描いてくれるYサポーターの存在が、新しい場所や関係への警戒心を一気に解いたようです。2週目からは勉強会に一番乗りでやって来て椅子並べやお菓子の買い出しを積極的に手伝ってくれるようになりました。そして兄弟のように仲が良くなったYサポーターと、勉強半分お絵描き半分で勉強会の時間を楽しんでいました。

#### ■気持ちの切り替え■

教室に来る時は頑張って明るく振舞っていても、勉強を始めるとYサポーターには「しんどい」「疲れたー」と漏らすようになりました。どうやら実家を離れて祖父の家で過ごし、祖母からは将来のために様々なことができるようになりなさいと家の用事を毎日夜遅くまでさせられていることもあり生活リズムが崩れているようでした。ある時、勉強会の開始直前に家から電話が入り、その内容ですごくイライラしている様子が伝わってきました。どうかしたの？と問いかけても「これは自分の問題だから」「少し休んだら落ち着く」と5分ほど机に突っ伏してから「よし、大丈夫！」と起き上がってガリガリ勉強し始めるという場面がありました。大人でも難しい気持ちの切り替えができてすごいね、と言っても「ん？何のこと？いつものことだし」と本人はケロッとしていました。そして、「絵を描いている時が一番落ち着く。家でもイライラしてきたら絵を描くようにしてるねん」と話してくれました。

#### ■キャラクターに気持ちを託す■

Cさんの画力は誰が見ても驚くほどみるみる上達し続けました。学習シートに書く『今日のハイライト』の欄は、アニメのキャラクターが登場してCさんが勉強した内容や感想を代弁するというスタイルでした。普段からCさんがいろんなキャラクターに自分を投影することで、気持ちをコントロールしようとしていることが伺えるようでした。そして、最後の一文には勉強を教えてくれたYサポーターや勉強会のスタッフに対する感謝の言葉が必ず添えられていました。

「Cさんのハイライトを読むの、いつも楽しみにしてるよー」と伝えたので、Cさんは勉強会が終わる10分前からハイライトを描く時間にあてて、一層念入りに描き込んでくれました。

#### ■支える輪を広げる■

Cさんの不安定さの振り幅が大きくなっていき、もともと不登校気味だった学校に加えて勉強会さえも休みがちになる時期もありました。Cさんを取り巻く環境が、気持ちを切り替えるキャパシティを飛び越しているようでした。以前担当していたケースワーカーさんが勉強会中に来て、別室で話しが出来るよう設定しました。気持ちを吐き出してスッキリした後にCさんが描いたハイライトにはマンガのキャラクターが「心配かけたな。もう大丈夫だ」と話しかけてくれていました。

また、プラッツが受託している「不登校児童通所事業（通称サテライト事業）」にも繋がりました。勉強会以上に長時間過ごせるサテライトにCさんは喜んで通い、サテライトで勤務している大学生と勉強会のサポーター、両方の居場所でCさんに寄り添うことでCさんが自発的に相談することができるようになりました。

このようにCさんを支える輪を広げたこともあって、なんとか中学を卒業することができ、高校も志望していた学校に届く点数を模試でもとれるようになりました。

#### ■イラストを描きながら■

素直で繊細すぎるCさんは、周囲の影響を人一倍受けやすいのですが、絵を描くことで落ち着き、人と繋がるきっかけを作ってきました。Cさんはどんなに落ち込んでも、話を聞いてもらったり、周囲の励ましで短い時間でも元気を取り戻せる回復力があります。また、早い段階からSOSを発信して必要なサポートに繋がる能力も持っています。Cさんが望む美術系の大学に進学できれば、Cさんの個性はもっと受け入れられていき、今までの経験を作品として昇華できる未来が待っているように思います。

## 7 中学生勉強会に参加する子どもの実際 —子どもへのアンケートから—

関西国際大学 教育学部教育福祉学科

尾崎慶太

### 1 調査の概要

本章では、東淀川区の学習支援事業（以下、勉強会）に参加する子どもが、1年間を通じてどのように変化するかを、年に3回実施したアンケート調査をもとに、その傾向を整理します。アンケート調査は、平成29年度に3回（第1回目：5月、第2回目：9月、第3回目：2月）実施しました。本章の内容は、そこで得られたデータをもとに分析しています。調査内容は、生活実態、勉強会に対する自己評価、自己効力感尺度<sup>1</sup>で構成されています。

集計方法は次のとおりです。第1に、勉強会に参加する子どもの実際を全体的に把握するため、各調査時点で得られたデータの単純集計を行います。なお、この集計作業で用いたデータは、あくまでも各調査時点において回収したものであり、同一の子どもが全3回の調査に回答しているとは限りません。そのため、勉強会による子どもへの影響を検証しているものではありません。

第2に、継続的に勉強会へ参加した子どもがどのように変化しているのかを明らかにするため、第2回目と第3回目の調査に回答した子どものみを抽出し、2つの地点での異同を確認します。とりわけ、勉強会に対する自己評価と自己効力感の変化について、統計的な分析を加えて検討します。第2回目の調査データを除いた理由は、子どもが安定して勉強会に出席するようになるのが、夏休み後の2学期からという実態があるからです。

第2節では、上記2つの集計方法による結果を概観しながら、勉強会に参加する子どもについて整理していきます。

### 2 調査結果

#### (1) 単純集計の結果

##### ① 子どもの生活実態

まず勉強会に参加する子どもの生活実態を把握するため、子ども自身の生活習慣や

---

<sup>1</sup> 児童用一般性自己効力感尺度（福井ら2009）を用いています。質問項目は、安心感9項目、チャレンジ精神9項目とする18項目2因子で構成されています。回答は4件法で求めており、得点が高いほど、自己効力感が高いことを意味するように数量化されています。参考文献：福井至・飯島政範・小山繭子ほか（2009）『GSESC-R 児童用一般性セルフ・エフィカシー尺度』こころネット株式会社。

学習習慣、進路希望、職業希望について質問しました。その内容について概観していきます。

第2表は起床時間、第2表は就寝時間を示しています。起床時間については、どの調査時点もそれほど違いはみられません。就寝時間についても、起床時間同様にどの調査時点でも大きな違いはみられませんでした。

第1表 起床時間

	第1回		第2回		第3回	
	人	%	人	%	人	%
午前6時より前	5	10.0	8	32.0	5	19.2
6時から7時より前	7	14.0	7	28.0	9	34.6
7時から8時より前	15	30.0	8	32.0	8	30.8
8時よりあと	0	0.0	0	0.0	2	7.7
決まっていない	2	4.0	2	8.0	2	7.7

第2表 就寝時間

	第1回		第2回		第3回	
	人	%	人	%	人	%
午後9時より前	1	3.7	1	4.0	1	4.5
9時から10時より前	3	11.1	2	8.0	1	4.5
10時から11時より前	5	18.5	8	32.0	6	27.3
11時から0時より前	9	33.3	4	16.0	4	18.2
0時から1時より前	7	25.9	6	24.0	7	31.8
1時よりあと	2	7.4	4	16.0	3	13.6

第3表は平日の学習時間、第4表は休日の学習時間を示しています。平日の学習時間は僅かではありますが、第3回目調査時点でもっとも学習時間が長くなっています。第3回目調査時点は、中学3年生にとって高校受験が控えている時期であり、試験勉強に取り組んでいる様子がうかがえます。他方で、休日の学習時間はどの調査時点でも大きな違いはみられません。勉強会は、平日の夕刻に実施されており、学校後の学習時間の確保に寄与できますが、休日に学習する習慣を身に付けさせること、あるいはその環境を保障することの困難さが推察されます。

第3表 平日の学習時間

	第1回		第2回		第3回	
	人	%	人	%	人	%
ほとんどしない	12	42.9	8	32.0	9	34.6
およそ30分	2	7.1	4	16.0	4	15.4
1時間	5	17.9	3	12.0	0	0.0
1時間30分	2	7.1	1	4.0	1	3.8
2時間	2	7.1	2	8.0	2	7.7
2時間30分	2	7.1	0	0.0	2	7.7
3時間	1	3.6	1	4.0	1	3.8
3時間以上	2	7.1	6	24.0	7	26.9



第4表 休日の学習時間

	第1回		第2回		第3回	
	人	%	人	%	人	%
ほとんどしない	19	65.5	15	60.0	14	51.9
およそ30分	2	6.9	2	8.0	4	14.8
1時間	4	13.8	2	8.0	3	11.1
1時間30分	0	0.0	0	0.0	1	3.7
2時間	0	0.0	0	0.0	2	7.4
3時間	1	3.4	2	8.0	0	0.0
3時間以上	3	10.3	4	16.0	3	11.1

第5表は自宅での学習習慣、第6表は自宅の学習環境を示しています。自宅での学習習慣が身に付いている子どもは4割に満たない状況にあります。また、約半数は自宅に学習する環境が十分に整っているとはいえないことが確認できます。これらの結果は、第3表および第4表で示した学習時間との関連が考えられます。平日の学習時間は、勉強会に出席したり、放課後学習をしたりすることである程度は確保されると予想できます。しかし、子どもの半数は、自宅に学習する環境が整っていないため、休日に学習する習慣が身に付かず、その結果として、休日の学習時間が短くなることが考えられます。

第5表 自宅の学習環境（自宅での学習する習慣はあるか）

	第1回		第2回		第3回	
	人	%	人	%	人	%
はい	9	31.0	6	24.0	10	35.7
いいえ	12	41.4	12	48.0	12	42.9
どちらでもない	8	27.6	7	28.0	6	21.4

第6表 自宅の学習環境（自宅に学習する環境は整っているか）

	第1回		第2回		第3回	
	人	%	人	%	人	%
はい	12	41.4	12	48.0	14	50.0
いいえ	10	34.5	8	32.0	6	21.4
どちらでもない	7	24.1	5	20.0	8	28.6

第7表は高校進学希望、第8表は職業に対するイメージを示しています。高校進学については、9割近くの子どもの希望しています。他方、将来の職業について、具体的にイメージをもっている子どもは約半数という状況にあります。勉強会の事業目的に、職業意識に関する具体的内容が掲げられているわけではありませんが、将来の安定した就労へつなげ、貧困サイクルを打破することを考えれば、子どもの職業意識を醸成する仕組みを構築することも課題の一つとしてあげることができます。

第7表 高校進学希望（高校に進学したいか）

	第1回		第2回		第3回	
	人	%	人	%	人	%
はい	18	75.0	20	83.3	23	88.5
いいえ	2	8.3	1	4.2	0	0.0
どちらでもない	4	16.7	3	12.5	3	11.5

第8表 職業に対するイメージ（なりたい職業があるか）

	第1回		第2回		第3回	
	人	%	人	%	人	%
はい	13	44.8	12	52.2	11	39.3
いいえ	7	24.1	6	26.1	7	25.0
どちらでもない	9	31.0	5	21.7	10	35.7

## ②勉強会に対する自己評価

次に、子ども自身の勉強会に対する自己評価を把握するため、勉強会で想定される場面に対してどのような認識をもっているのかを確認しました。それをまとめたものが第9表になります。勉強会に参加して、宿題や予習・復習など勉強している時を楽しんでいる姿が確認されます。学生サポーターやスタッフ、友達と一緒に勉強したり、話をしたりすることを楽しんでいることも確認されるため、1人で勉強する状況とは異なり、自分以外の他者と勉強する環境に身を置くことによって、勉強する楽しさを実感する契機となっていると考えられます。

他方、もっと勉強したいという気持ちにまでは至っていないことも明らかとなっています。とりわけ、第2回目、第3回目調査時点では、「もっと勉強したいという気持ちになりますか」に対して「いいえ」と回答した子どもが約2割おり、「どちらでもない」を合わせると5割を超えます。中学3年生の参加が多く、彼らは高校受験に向けた試験勉強に取り組まなければならない状況に直面しています。高校受験、進路選択という課題を乗り越えるため、勉強会で学習に取り組んでいますが、その反動から、勉強したいと思わなくなってしまうケースも存在することがわかります。

また東淀川区における実践の特徴は、居場所を重視する点にあります。アンケート結果からも子どもが居場所として認識していることが分かる結果が示されています。例えば、「勉強会は過ごしやすい場所ですか」、「勉強会に参加した後、また参加したいという気持ちになりますか」という項目では、ほぼ全ての子どもが肯定的な評価をしています。東淀川区が重視している居場所としての機能が十分に発揮されているとみてとれます。

第 9 表 勉強会をどのように思っているか

		はい		いいえ		どちらでもない	
		人	%	人	%	人	%
学習支援教室で宿題や予習・復習など勉強している時、楽しいと感じますか。	第1回	24	82.8	2	6.9	3	10.3
	第2回	18	78.3	1	4.3	4	17.4
	第3回	23	82.1	2	7.1	3	10.7
学習支援教室で大学生ボランティアやスタッフの人と話をしている時、楽しいと感じますか。	第1回	26	89.7	0	0	3	10.3
	第2回	21	87.5	1	4.2	2	8.3
	第3回	25	89.3	1	3.6	2	7.1
学習支援教室で友達と話をしている時、楽しいと感じますか。	第1回	23	79.3	1	3.4	5	17.2
	第2回	19	76.0	1	4.0	5	20.0
	第3回	21	75.0	7	25.0	0	0.0
学習支援教室で、新しい友達、仲間ができましたか。	第1回	16	55.2	7	24.1	6	20.7
	第2回	12	48.0	8	32.0	5	20.0
	第3回	15	53.6	5	17.9	8	28.6
学習支援教室では、一人で勉強したいですか。	第1回	0	0.0	19	67.9	9	32.1
	第2回	3	12.0	14	56.0	8	32.0
	第3回	1	3.6	14	50.0	13	46.4
学習支援教室では、友達と一緒に勉強したいですか。	第1回	18	62.1	2	6.9	9	31.0
	第2回	16	64.0	3	12.0	6	24.0
	第3回	14	50.0	3	10.7	11	39.3
学習支援教室では、大学生ボランティアやスタッフの人と一緒に勉強したいですか。	第1回	25	86.2	1	3.4	3	10.3
	第2回	20	83.3	0	0.0	4	16.7
	第3回	24	85.7	1	3.6	3	10.7
学習支援教室に参加した後、もっと勉強したいという気持ちになりますか。	第1回	16	55.2	2	6.9	11	37.9
	第2回	11	44.0	5	20.0	9	36.0
	第3回	13	46.4	6	21.4	9	32.1
学習支援教室は過ごしやすい場所ですか。	第1回	28	96.6	0	0.0	1	3.4
	第2回	23	95.8	0	0.0	1	4.2
	第3回	25	89.3	0	0.0	3	10.7
学習支援教室に参加した後、また参加したいという気持ちになりますか。	第1回	27	93.1	0	0.0	2	6.9
	第2回	25	100.0	0	0.0	0	0.0
	第3回	25	92.6	0	0.0	2	7.4

### ③子どもの自己効力感

子どもの貧困問題において、彼らの自己肯定感あるいは自己効力感が低いという指摘があります。そこで、自己効力感尺度を用いて、勉強会が子どもの自己効力感にどのように作用するのか、1年間の様子を観察しました。集計の際は各項目の合計点を求めて、その平均値をまとめています。第10表はその結果を表したものです。

全体的な特徴として、自己効力感は低い傾向にあります。各調査時点の特徴として、第2回調査時点がそれ以外の調査時点よりも低い値になっています。その後の第3回目調査時点では、改善傾向がみられます。その一因として、子どもが夏休み前後に勉強会へ新規登録して参加し始めることにあると考えられます。つまり、第2回目調査時点では参加間もない子どもが相対的に多く存在し、勉強会に慣れておらず、新たな場所への不安感や友人関係の未形成が影響していると予想されます。

因子ごとでみると、安心感の改善傾向にありますが、それは勉強会が過ごしやすい場であり、安心できる環境にあったことが作用していると考えられます。他方、高校受験を控える第3回目調査時点でのチャレンジ精神は低くなっています。これらの結果から、先に述べたように東淀川区の勉強会は居場所として十分な成果が上がっています。今後の課題として、高校進学する際に必ず直面する受験勉強や進路選択にどのように向き合うのか、単純な学習だけではなく、子どもがそのような困難に立ち向かうためのエンパワメントの

必要性もみえてくる結果となりました。

第 10 表 自己効力感の平均値

	第1回	第2回	第3回
総合点	41.00	38.37	40.37
安心感	20.55	17.63	21.63
チャレンジ精神	20.45	20.74	18.74

※参考 自己効力感の得点分布

	非常に低い	低い傾向にある	普通	高い傾向にある	非常に高い
総合点	～36	37～46	47～55	56～65	66～
安心感	～15	16～21	22～27	28～34	35～
チャレンジ精神	～18	19～23	24～28	29～34	35～

## (2) アンケート結果からみる子どもの変化

これまで、各調査時点における子どもの実際を概観してきました。ここからは、勉強会に参加することでどのような変化が生じているのか、とりわけ第2回目調査時点と第3回目調査時点のデータを用いて、分析を試みます。

### ① 自己効力感の変化

(1)の③では、各調査時点の自己効力感の平均値を示し、傾向について言及しました。そこから、第2回目調査時点から第3回目調査時点まで継続的に参加している（両地点を回答した）子どものみのデータを抽出し、分析します。第11表は、そのデータの平均値を示したものです。両地点とも、自己効力感は低い傾向にあります。しかし、安心感については、「低い傾向にある」（平均値：18.83）から「普通」（平均値：23.06）へと改善されています。（「※参考 自己効力感の得点分布」参照）この変化について、平均の差の検定をおこなったところ、統計的に有意な差がみられました。すなわち、勉強会が子どもの安心感に効果的であったといえます。他方、チャレンジ精神について、第10表では、第3回目調査時点の方が第2回目調査時点よりも消極的な傾向がありましたが、継続的に参加する子どもに限っていえば、消極的に向かっているわけではありません。これらの結果から、勉強会は安心感を与えるとともに、思春期にみられる消極的になりがちな態度や姿勢を支えていることが推察されます。

第 11 表 継続参加する子どもの自己効力感の変化

	第2回	第3回
総合点	38.06	42.06
安心感	18.83	23.06
チャレンジ精神	19.22	19.00

## ②相関分析にみる子どもの変化

次に、第2回調査時点と第3回調査時点のそれぞれの、自己効力感、勉強会に対する自己評価の相関を概観します。そして、2地点間でどのような変化が表れているのかをみていきたいと思います。

まず、第2回目調査時点における自己効力感、勉強会に対する自己評価に関する相関について概観します。第12表は、相関分析結果を表したものです。子どもの自己効力感については、総合点と安心感の間に正の相関がみられます。また、総合点とチャレンジ精神、安心感とチャレンジ精神の間に相関はみられませんでした。

勉強会に対する自己評価について、まず「勉強会で宿題や予習・復習など勉強している時、楽しいと感じますか」と「大学生サポーターやスタッフの人と話をしている時、楽しいと感じますか」、「友達と話をしている時、楽しいと感じますか」、「友達と一緒に勉強したいですか」の間に正の相関がみられました。勉強会では、1人で過ごす時間はほとんどありません。勉強するときは、学生サポーターやスタッフがマンツーマンになって学習支援を行います。時には、友達同士で話をしながら宿題をする姿もみられます。これら現場での様子を表す結果が示されています。また、勉強会で学生サポーター・スタッフや友達と共に勉強する機会をとおして、新たな友達を作っていることが読み取れます。勉強会が、単に勉強の場を提供しているのではなく、それらの機会をとおして、新たな人間関係の形成に寄与していることが示唆されます。

次に、第3回目調査時点に自己効力感、勉強会に対する自己評価に関する相関について概観します。第13表は、相関分析結果を表したものです。子どもの自己効力感については、総合点と安心感、総合点とチャレンジ精神の間に正の相関がみられます。安心感とチャレンジ精神の間に相関はみられませんでした。

勉強会に対する自己評価について、「勉強会で宿題や予習・復習など勉強している時、楽しいと感じますか」と「大学生サポーターやスタッフの人と話をしている時、楽しいと感じますか」の間に相関がみられます。また「大学生サポーターやスタッフの人と一緒に勉強したいですか」と「勉強会に参加した後、また参加したいという気持ちになりますか」の間に相関がみられます。第3回目調査時点においても、学生サポーターやスタッフの存在が子どもに良い影響を与えている可能性を指摘できます。さらに「勉強会は過ごしやすい場所ですか」と友達に関する3つの質問項目の間でも相関がみられました。他方、「勉強会で友達と話をしている時、楽しいと感じますか」、「勉強会で新しい友達、仲間ができましたか」と自己効力感の間で負の相関もみられました。

第2回目調査時点と第3回目調査時点の変化として、自己効力感が積極的になっていることが指摘できます。とりわけ、第3回目調査時点では、総合点と安心感の間の相関が強くなっています。第11表で、安心感の得点が有意に高くなっていることを指摘しましたが、総合点との相関でも明らかになっています。勉強会での居場所支援が子どもに安心感

を与え、結果として総合点（自己効力感）が上がる可能性があります。また、2地点ともに学生サポーターやスタッフとの関わりと勉強の楽しさや参加意欲との相関がみられます。子どもにとって、学生サポーターやスタッフは変化しない存在としての認識があると考えられます。それとは別に、2地点で違いもみられました。それは友達との関係性です。第2回目調査時点ではみられませんでした。第3回目調査時点では、自己効力感との間で負の相関がみられました。しかし、「勉強会で友達と話している時、楽しいと感じますか」と「勉強会は過ごしやすい場所ですか」との間で強い正の相関がみられます。これらの結果から、学生サポーターやスタッフとは固定の存在として人間関係を構築していくため、良好な関係になりやすいと考えられます。一方、友達同士では、勉強会への参加の度合いが異なったり、思春期であるがゆえの心の不安定さを抱えている子どもが少なくなかったりするため、良好な関係とそうではない関係の両方が混在しているとみてとれます。人間関係を構築する際に葛藤がうまれることがあります。勉強会に参加する子どもも、この場で葛藤を経験しています。これらをどのように解決していくのか、そのプロセスを経験することが、人間関係形成に必要なスキルを培うことへとつながります。

学生サポーターやスタッフとの安定的な関わりと、子ども同士の関わりで生まれる葛藤解決を経験することは、勉強会の場が「基礎的な学力」を支える社会性の涵養という機会を提供しているといえます。

第 12 表 相関分析の結果\_第 2 回目調査時点

		自己効力感_総合点	自己効力感_安心感	自己効力感_チャレンジ精神	勉強会で宿題や予習・復習など勉強している時、楽しいと感じますか。	勉強会で大学生サポーターやスタッフの人と話している時、楽しいと感じますか。	勉強会で友達と話している時、楽しいと感じますか。	勉強会で、新しい友達、仲間ができましたか。	勉強会では、一人で勉強したいですか。	勉強会では、友達と一緒に勉強したいですか。	勉強会では、大学生サポーターやスタッフの人と一緒に勉強したいですか。	勉強会に参加した後、もっと勉強したいという気持ちになりますか。	勉強会は過ごしやすい場所ですか。	勉強会に参加した後、また参加したいという気持ちになりますか。
自己効力感_総合点	Pearson の相関係数 有意確率 (両側) 度数	1	.743**	0.33	-.090	.102	-.061	-.360	-.038	-.067	.140	.080	.b	.b
自己効力感_安心感	Pearson の相関係数 有意確率 (両側) 度数	.743**	1	-.0386	.022	.226	.200	-.008	.240	0.162	.332	-.007	.b	.b
自己効力感_チャレンジ精神	Pearson の相関係数 有意確率 (両側) 度数	0.33	-.0386	1	-.174	-.178	-.366	-.485*	-.391	-.321	-.276	.120	.b	.b
勉強会で宿題や予習・復習など勉強している時、楽しいと感じますか。	Pearson の相関係数 有意確率 (両側) 度数	-.090	.022	-.174	1	.560*	.681**	.250	.126	.745**	0.042	.056	.b	.b
勉強会で大学生サポーターやスタッフの人と話している時、楽しいと感じますか。	Pearson の相関係数 有意確率 (両側) 度数	.102	.226	-.178	.560*	1	.541*	.254	.059	.333	.236	-.277	.b	.b
勉強会で友達と話している時、楽しいと感じますか。	Pearson の相関係数 有意確率 (両側) 度数	-.061	.200	-.366	.681**	.541*	1	.573*	.393	.666**	.393	.038	.b	.b
勉強会で、新しい友達、仲間ができましたか。	Pearson の相関係数 有意確率 (両側) 度数	-.360	-.008	-.485*	.250	.254	.573*	1	.342	0.208	.562*	-.110	.b	.b
勉強会では、一人で勉強したいですか。	Pearson の相関係数 有意確率 (両側) 度数	-.038	.240	-.391	.126	.059	.393	.342	1	0.212	.437	.418	.b	.b
勉強会では、友達と一緒に勉強したいですか。	Pearson の相関係数 有意確率 (両側) 度数	-.067	0.162	-.321	.745**	.333	.666**	0.208	0.212	1	.212	-.038	.b	.b
勉強会では、大学生サポーターやスタッフの人と一緒に勉強したいですか。	Pearson の相関係数 有意確率 (両側) 度数	.140	.332	-.276	0.042	.236	.393	.562*	.437	.212	1	-.009	.b	.b
勉強会に参加した後、もっと勉強したいという気持ちになりますか。	Pearson の相関係数 有意確率 (両側) 度数	.080	-.007	.120	.056	-.277	.038	-.110	.418	-.038	-.009	1	.b	.b
勉強会は過ごしやすい場所ですか。	Pearson の相関係数 有意確率 (両側) 度数	.b	.b	.b	.b	.b	.b	.b	.b	.b	.b	.b	1	.b
勉強会に参加した後、また参加したいという気持ちになりますか。	Pearson の相関係数 有意確率 (両側) 度数	.b	.b	.b	.b	.b	.b	.b	.b	.b	.b	.b	.b	1

\*\* 相関係数は 1% 水準で有意 (両側) です。

\* 相関係数は 5% 水準で有意 (両側) です。

b 少なくとも 1 つの変数が定数であるため、一定の変数は計算されません。

第 13 表 相関分析の結果\_第 3 回目調査時点

	自己効力感_総合点	自己効力感_安心感	自己効力感_チャレンジ精神	勉強会で宿題や予習・復習など勉強している時、楽しいと感じますか。	勉強会で大学生サポーターやスタッフの人と話している時、楽しいと感じますか。	勉強会で友達と話している時、楽しいと感じますか。	勉強会で、新しい友達、仲間ができましたか。	勉強会では、一人で勉強したいですか。	勉強会では、友達と一緒に勉強したいですか。	勉強会では、大学生サポーターやスタッフの人と一緒に勉強したいですか。	勉強会に参加した後、もっと勉強したいという気持ちになりますか。	勉強会は過ごしやすい場所ですか。	勉強会に参加した後、また参加したいという気持ちになりますか。
自己効力感_総合点	1	.847**	.535*	.099	.384	-.514*	-.447	-.212	-.377	.175	.089	-.348	.311
Pearson の相関係数													
有意確率 (両側)		.000	.022	.697	.116	.029	.063	.399	.123	.488	.727	.157	.209
度数	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18
自己効力感_安心感	.847**	1	0.004	.201	.454	-.241	-.164	-.427	-.0419	.207	.019	-.131	.388
Pearson の相関係数													
有意確率 (両側)	.000		.988	.424	.058	.335	.515	.077	.083	.410	.939	.605	.112
度数	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18
自己効力感_チャレンジ精神	.535*	0.004	1	-.134	.000	-.583*	-.579*	.281	-.042	.000	.136	-.447	-.032
Pearson の相関係数													
有意確率 (両側)	.022	.988		.595	1.000	.011	.012	.258	.869	1.000	.591	.063	.900
度数	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18
勉強会で宿題や予習・復習など勉強している時、楽しいと感じますか。	.099	.201	-.134	1	.606**	.000	.306	-.329	-.061	0.171	-.164	0.088	0.346
Pearson の相関係数													
有意確率 (両側)	.697	.424	.595		.008	1.000	.217	.182	.811	.498	.516	.727	.160
度数	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18
勉強会で大学生サポーターやスタッフの人と話している時、楽しいと感じますか。	.384	.454	.000	.606**	1	-.108	.099	-.160	-.206	-.104	.016	-.086	-.084
Pearson の相関係数													
有意確率 (両側)	.116	.058	1.000	.008		.668	.696	.527	.412	.682	.950	.735	.741
度数	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18
勉強会で友達と話している時、楽しいと感じますか。	-.514*	-.241	-.583*	.000	-.108	1	.730**	.210	.434	.267	.205	.791**	.217
Pearson の相関係数													
有意確率 (両側)	.029	.335	.011	1.000	.668		.001	.402	.072	.283	0.414	.000	.388
度数	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18
勉強会で、新しい友達、仲間ができましたか。	-.447	-.164	-.579*	.306	.099	.730**	1	.154	.569*	.174	-.187	.577*	.311
Pearson の相関係数													
有意確率 (両側)	.063	.515	.012	.217	.696	.001		.543	.014	.489	.457	.012	.210
度数	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18
勉強会では、一人で勉強したいですか。	-.212	-.427	.281	-.329	-.160	.210	.154	1	.570*	.153	.265	.067	-.345
Pearson の相関係数													
有意確率 (両側)	.399	.077	.258	.182	.527	.402	.543		.013	.545	.288	.793	.161
度数	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18
勉強会では、友達と一緒に勉強したいですか。	-.377	-.0419	-.042	-.061	-.206	.434	.569*	.570*	1	.383	.127	.472*	.008
Pearson の相関係数													
有意確率 (両側)	.123	.083	.869	.811	.412	.072	.014	.013		.116	.615	.048	.974
度数	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18
勉強会では、大学生サポーターやスタッフの人と一緒に勉強したいですか。	.175	.207	.000	0.171	-.104	.267	.174	.153	.383	1	0.33	0.393	.597**
Pearson の相関係数													
有意確率 (両側)	.488	.410	1.000	.498	.682	.283	.489	.545	.116		.181	.107	.009
度数	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18
勉強会に参加した後、もっと勉強したいという気持ちになりますか。	.089	.019	.136	-.164	.016	.205	-.187	.265	.127	0.33	1	.232	-.059
Pearson の相関係数													
有意確率 (両側)	.727	.939	.591	.516	.950	0.414	.457	.288	.615	.181		.355	.816
度数	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18
勉強会は過ごしやすい場所ですか。	-.348	-.131	-.447	0.088	-.086	.791**	.577*	.067	.472*	0.393	.232	1	0.318
Pearson の相関係数													
有意確率 (両側)	.157	.605	.063	.727	.735	.000	.012	.793	.048	.107	.355		.199
度数	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18
勉強会に参加した後、また参加したいという気持ちになりますか。	.311	.388	-.032	0.346	-.084	.217	.311	-.345	.008	.597**	-.059	0.318	1
Pearson の相関係数													
有意確率 (両側)	.209	.112	.900	.160	.741	.388	.210	.161	.974	.009	.816	.199	
度数	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18

\*\* 相関係数は 1% 水準で有意 (両側) です。  
\* 相関係数は 5% 水準で有意 (両側) です。

### 3 まとめにて代えて

本章は、東淀川区勉強会の事業検証の一環で、それに参加する子どもへのアンケート調査をもとに、1年間を通じてどのように変化するのかを明らかにすることでした。

調査からは、子どもは学習する環境を整えることに苦慮しており、学習習慣が身に付いていないがために学習する時間も不十分な状況にあることがわかりました。高校進学をしたいという希望はもっているものの、その先にある「仕事をする」という職業観や意識は高いとはいえません。昨今の高校中退やひきこもり問題など、若者の社会的問題へとつながってしまう恐れもあります。

このような中、貧困サイクルを打破するために、東淀川区勉強会は居場所支援の機能を重視して実践しています。1年間の子どものアンケート調査からわかったことは、居場所支援によって、子ども自身の安心感が高まっているということです。本章ではその要因についての検証を行っていませんが、実践現場で重要視している学生サポーターやスタッ



フとのマンツーマンの丁寧な関わりが功を奏していると考えられます。大人たちの絶え間ない関わりが、子どもに安心感を与えているのです。

他方で、事業目的に掲げられている「高校中退を防止するための学力（社会性・学習習慣を含む）形成」については、十分な検証を行うことができていません。たとえば、自己効力感の安心感に比して、チャレンジ精神は上がっているとはいえません。これは、事業目的、事業（実践）内容、効果検証が一体のものとして連動していかなければならないことも示唆しています。本章で試みた子どもへのアンケート調査による効果検証は、学習支援事業の効果検証のごくわずかでしかなく、また、学習支援事業による効果（子どもの成長）を数値化することの難しさも露呈しています。本報告書の別章で述べられていますが、子どものエピソード、学生サポーターやスタッフ、ケースワーカーなど、多方面にわたる多角的な分析によって、立体的に学習支援事業を評価することが必要だと考えられます。

学習支援事業は、生活支援をも含む事業として制度化されます。今後もさらなる学習支援事業の検証・研究の積み重ねが求められます。